

第10回図書館総合展/第3回IRIが選ぶ「Library of the Year」パネル1

第3回 IRIが選ぶ「Library of the Year 2008」
千代田図書館

推薦文

千代田図書館は「これまでにない図書館」であることをめざし、それを実現してきた図書館である。千代田図書館を紹介した新聞や雑誌の見出しには「奇抜な図書館」「未来型図書館」といった文字が踊る。確かに千代田図書館には「日本で最初」がいくつもあつた。コンシェルジェの配置と図書館外のショップまで含むさまざまな情報提供、RFID (ICタグ) を利用した検索システム (キーボードを使わずに検索を実現するという試みは画期的であった。出版界でも実験は行つたが実際に運用した事例はない。これからはもっと進化して使いやすいものになるだろうと期待したのであるが、2008年3月で中止されてしまったのは極めて残念である)、千代田Web図書館によって実現した電子図書貸し出しサービス (ややもすれば保守的な日本の出版界を巻き込んでこれを実現した手腕は見事)、「としょかんのこしょてん」のような古書の展示即売、図書館で文楽、地下鉄駅での斬新な広告、...いちいちあげたらきりがなくらいである。

しかしながら、千代田図書館のすぐれている点は、ただ単にこのような「日本で最初」を実現したことにあるのではない。この図書館がよって立つコミュニティのニーズを見極め、コミュニティとの関係を何よりも優先して考え、コミュニティ内のさまざまな機関との連携を模索し、それを最大限生かす形でサービスを展開しようとしてきたことにあるのである。日本のすべての公共図書館が、この図書館で提供されているようなサービス (例えば古書の展示即売) を展開しなければならないなど言うつもりはない。しかしながら、図書館をコミュニティにとって不可欠の基盤としていくために千代田図書館が試みてきたことは、行政や市民の図書館サービスに対する無理解のみを非難し、伝統的な図書館のよさの上にあぐらをかいて、コミュニティのために、あるいはコミュニティの特性を生かして何が出来るのかを考えてこなかった図書館関係者に対する強烈な一撃であった。もし「千代田図書館だからできた」と考える図書館関係者がいるのであれば、そんなことを考える前に「自分の図書館ならコミュニティのために、誰と連携すればどういふことができるのか」を考えるべきである。このように考えさせるきっかけを作っただけでも千代田図書館はLibrary of the Yearに値すると言っても過言ではない。

千代田図書館は指定管理者制度による図書館運営という点でも図書館界に一石を投じた。社会的条件が整わぬままに無理に導入された観のある指定管理者制度の将来展望については厳しいものがあるが、少なくとも千代田図書館の場合には指定管理者制度の良い面が現れたと言えるだろう。ただ、全体として実験的な色彩がかなり強いのは事実であり、現在行われていることすべてが永続的に行われるかどうかはわからない。しかし実験的なサービスに果敢に取り組み、その内容を常に広く知らしめることによって、社会による評価あるいは批判の対象とし、それに耐えていることも評価すべきである。



「千代田図書館」

図書館情報

図書館名 千代田図書館
所在地 東京都千代田区九段南1-2-1千代田区役所9・10F
TEL 03-5211-4289・4290

URL <http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/>
(千代田区立図書館全体のサイト)
開館時間 〔月～金曜日〕 10:00～22:00 〔土〕 10:00～19:00
〔日・祝日 12月29日～12月31日〕 10:00～17:00
休館日 第4日曜日、1月1日～1月3日、特別整理期間

図書館の特長及び概要

千代田図書館は旧図書館の移転という形で千代田区役所の9階と10階に2007年5月に開館した都心型図書館である。公共図書館としての基本的なサービスを提供するだけでなく、地域特性を生かして「千代田区らしさ」を考慮した図書館運営を計画し、これを「千代田ゲートウェイ」「創造と語らいのセカンドオフィス」「区民の書齋」「歴史探求のジャングル」「キッズセミナーフィールド」という五つの基本コンセプトにまとめた上で、サービスを展開している。

「千代田ゲートウェイ」とは千代田という街の玄関口と定義付けられるもので、図書館においては「コンシェルジェ」によって図書館の総合案内機能を果たすと同時に、近隣書店も含めた本探しのサポート (「としょかんのこしょてん」という形で、図書館内に古書店が資料を展示販売も実施)、地域内における生活に密着した様々な情報 (区役所の案内、文化施設、レストランなど各種店舗の紹介、展覧会、イベントの紹介、観光案内、おすすめスポットの紹介) を提供している。「創造と語らいのセカンドオフィス」として、平日は夜10時まで開館し、ビジネスでの利用を前提に、有線/無線LAN環境、様々なオンラインデータベース、調査研究用資料を提供する一方、「区民の書齋」として、来館する区民の調査研究を支援するとともに、定期的に託児サービスを提供することによって区民のリカレント教育を支援する。また「千代田Web図書館」で電子図書を提供することによって非来館型のサービスも実現した。

地域内の様々な機関との連携も活発に行われており、多種多様な展示、イベントが数多く開催されているのも大きな特徴の一つである。また、サポーターズ・クラブを組織して、利用者同士あるいは、利用者と図書館との連携強化も試みている。